

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

製品名 : エンジンオイル ハイブリッドカー専用 0W-20 SQ相当品  
会社名 : 株式会社MonotaRO  
所在地 : 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階  
担当者名 : 商品お問合せ窓口  
電話番号 : 0120-443-509  
FAX番号 : 0120-289-888  
緊急連絡先 : 所在地と同じ  
整理番号 : M260204

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類  
物理化学的危険性 : GHS分類基準に該当しない  
健康に対する有害性 : GHS分類基準に該当しない  
環境に対する有害性 : GHS分類基準に該当しない  
GHSラベル要素  
シンボル : なし  
注意喚起語 : なし  
危険有害性情報 : なし  
注意書き : なし  
【安全対策】 : なし  
【応急措置】 : なし  
【保管】 : なし  
【廃棄】 : なし

※GHS分類による上記注意書きの記載以外でも、以降の情報を参考に安全対策/応急措置/保管/廃棄に対して十分な配慮を行ってください。  
注) 上記のGHS分類で区分の記載がない項目については、国連GHS勧告で規定された「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

組成及び成分情報

組成	Cas No.	化審法官報整理番号	含有量 (mass %)
石油系炭化水素 *1)	64742-54-7	-	73-77
潤滑油添加剤 *2)	(混合物)	-	6-10
粘度調整剤 *3)	(混合物)	-	5-9
ポリアルファーオレフィン	68037-01-4	6-1109	3-7
脂肪酸エステル	27178-16-1	2-861	3-7
有機モリブデン化合物 *4)	(混合物)	-	<0.3
流動点降下剤 *5)	(混合物)	-	≤0.2

危険有害成分 : 労働安全衛生法 (名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物/または皮膚等障害化学物質)

(組成に含まれる  
危険有害成分)

成分	Cas No.	政令番号	含有量 (mass %)
鉛油 *1)	64742-54-7	規則別表第2の581	73-77
鉛油 *2)	-	規則別表第2の581	2-4
モリブデン及びその化合物 *2)	-	令別表第9の31	0.1-0.4
鉛油 *3)	-	別表第9の168	5-7
モリブデン及びその化合物 *4)	90901-24-9 799241-27-3 253873-83-5 253873-84-6	令別表第9の31	0.1-0.2
鉛油 *4)	-	規則別表第2の581	0.1-0.2
鉛油 *5)	-	規則別表第2の581	<0.2

## 4. 応急処置

吸入した場合 1 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。  
2 体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、気分が悪い時は直ちに医師の診断を受ける。  
皮膚に付着した場合 1 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。  
2 汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。  
眼に入った場合 1 清浄な水で数分間注意深く洗う。  
2 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。  
3 その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の診断を受ける。  
飲み込んだ場合 1 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。  
2 口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

## 5. 火災時の措置

消火剤 : 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂が有効である。  
使ってはならない消火剤 : 棒状水の使用は、火災の拡大を引き起こすことがある。  
特有の危険有害性 : 火災によっては、刺激性のガスが発生することがある。  
特定の消化方法 1 火元への燃焼源を絶つ。  
2 周囲の設備等に散水して冷却する。  
3 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。  
消火を行う者の保護 1 消火作業の際は、風上から保護具を着用して行う。皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。  
2 必要時は適切な空気呼吸器と防護服を着用する。

**6. 漏出時の措置**

人体に対する注意事項	: 作業の際には、保護具を着用する。
環境に対する注意事項	1 土、砂、砂袋その他適切な方法で漏洩の広がりを防ぎ側溝、下水道、河川へ流出しないよう注意する。 2 海上では、漏洩の拡大を防ぐため、オイルフェンスを張り、吸収マット又は適切な資材に吸収させる。
封じ込め及び浄化の方法及び資材	1 危険領域から人を退避させる。 2 危険領域にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。 3 少量流出の場合、漏洩物を土、砂、砂袋、ウエスその他適切な物に吸収させ回収する。 4 大量流出の場合、盛土で囲み漏洩の広がりを防ぎ、可能な限り空容器に回収する。
二次災害の防止策	1 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。 2 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。 3 漏洩物を完全に除去し、漏洩場所と周辺の換気及び浄化を行う。

**7. 取扱い及び保管上の注意**

取扱い	
技術的対策	1 取り扱い時は適切な保護具を着用する。 2 皮膚との接触を避ける。 3 眼との接触を避ける。 4 屋内での取り扱い時は適切な換気下で行う。 5 蒸気、ミストが拡散する場合は密閉系で、局所排気システムその他適切な装置を設置する。
注意事項	: 指定数量以上を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
安全取り扱い注意事項	1 容器開封時は手の怪我を防ぐため手袋を着用する。 2 容器から取り出す時はポンプなどを使用する。細管を用いて口で吸い上げない。飲み込まない。 3 ミストが発生する時は、呼吸器具を使用してミストを吸入しない。 4 容器を倒したり、落としたり、ショックを与えたり、引きずったりしない。
接触回避	1 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。 2 火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させない。
衛生対策	1 取り扱い後は手と顔をよく洗う。 2 作業中は飲食、喫煙をしない。
保管	
保管条件	1 直射日光を避け、涼しく換気され、乾燥した場所に保管する。 2 発火源の可能性のあるもの、高温物体を避ける。 3 使用後は容器を密栓し、ゴミ、水分の混入を防ぐ。
注意事項	: 空容器は可燃性の製品残留物を含んでいる可能性がある。洗浄前に溶接、ハンダ付け、穴あけ、切断等してはならない。

**8. 暴露防止及び保護措置**

設備対策	1 ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。 2 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
管理濃度	: 規定なし (作業環境評価基準：労働省告示第26号、平成7年3月27日)
許容濃度	1 日本産業衛生学会(2021年度版) : 時間荷重平均 3mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミスト) 2 ACGIH (2010年度版) : 時間荷重平均 5mg/m <sup>3</sup> (鉱油ミスト)
保護器材	
呼吸器用保護具	: 通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。
手の保護具	: 長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。
眼の保護具	: 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長期間にわたり、繰り返し取扱う場合には耐油性の長袖作業着を着用する。
衛生対策	1 汚れた衣服は脱ぎ、最使用する場合はよく洗う。 2 取り扱い後は手を十分に洗う。

**9. 物理的及び化学的性質**

物理状態	: 液体	
色	: 褐色	
臭い	: 石油臭	
臭いの閾値	: データなし	
pH	: データなし	
沸点又は初留点	: データなし	
沸点範囲	: データなし	
流動点	: データなし	
引火点	: ≥200 °C	JIS K 2265-4 (COC)
自然発火点	: データなし	
分解温度	: データなし	
爆発範囲の上限	: データなし	
爆発範囲の下限	: データなし	
蒸気圧	: データなし	
蒸気密度	: データなし	
密度 (15°C)	: 0.85 g/cm <sup>3</sup>	JIS K 2249
動粘度 (40°C)	: 42 mm <sup>2</sup> /s	JIS K 2283
水に対する溶解度	: 不溶	

**10. 安定性及び反応性**

反応性	: 通常の取り扱い条件下では反応しない。
化学的安定性	: 常温・常圧で安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	1 混触危険物質との接触。 2 長時間の加熱、裸火、着火源。

混触危険物質 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。  
 危険有害な分解生成物 : 燃焼時、一酸化炭素等が生成される可能性がある。

## 11. 有害性情報

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

### 製品

混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。

急性毒性 : 分類できない。  
 皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 分類できない。  
 眼に対する重篤な損傷性 / 刺激性 : 分類できない。  
 呼吸器感作性 : 分類できない。  
 皮膚感作性 : 分類できない。  
 生殖細胞変異原性 : 分類できない。  
 発がん性 : 分類できない。  
 生殖毒性 : 分類できない。  
 特定標的臓器毒性 (単回暴露) : 分類できない。  
 特定標的臓器毒性 (反復暴露) : 分類できない。  
 誤えん有害性 : 40℃の動粘性率が20.5mm<sup>2</sup>/s以下の炭化水素に該当しないため分類されない。

### 成分 (石油系炭化水素)

急性毒性 (経口) : ラットLD50 5000mg/kg以上  
 急性毒性 (経皮) : ラットLD50 5000mg/kg以上  
 急性毒性 (吸入) : ラット吸入(ミスト) LC50(4h) 5mg/L以上  
 眼に対する重篤な損傷性 / 刺激性 : ウサギによる複数の眼刺激試験において、眼刺激性に区分する結果は得られていない。  
 呼吸器感作性 : 分類されない。  
 皮膚感作性 : モルモットを用いた複数の試験 (ビューラーテスト) において、いずれも感作性なしとの結果が得られている。  
 生殖細胞変異原性 : AMES試験においてMutagenicity Index (MI) 値が0.0との報告がある。  
 発がん性 : 広範囲な変異原性試験 (in vivo及び in vitro) が実施されているが、大部分の結果から変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する。  
 発がん性 : IARCでは、高度精製油はグループ3(人に対する発がん性について分類できない) に分類され、ACGIHの提案もほぼ同様の分類と言える。EUによる評価では、発がん性物質としての分類は適用される必要はない。  
 生殖毒性 : 各種動物への皮膚暴露試験から得られた知見により発がん性はなしと判断されている。  
 生殖毒性 : ラットにおける複数の発育毒性および生殖毒性試験において、発育毒性および生殖毒性を示す結果は得られなかった。  
 特定標的臓器毒性 (単回暴露) : 急性試験による各種特定臓器への単回暴露毒性は認められていない。  
 特定標的臓器毒性 (反復暴露) : 経皮及び吸入投与による4週間から2年間の反復毒性試験を行ったが、全身に対する影響は確認されなかった。

### 成分 (潤滑油添加剤)

即時健康障害  
 眼 : 持続的または重大な眼刺激性を引き起こすとは考えられていない。  
 眼刺激性 : 本物質が加熱されている場合、眼に接触することにより火傷する恐れがある。  
 皮膚 : 眼刺激の危険性は、類似物質または類似製品構成物物のデータ評価に基づいている。これらのデータは、本製品に含まれている特定の校正成分がZnDTPの眼刺激を中和する。(または重症化を軽減する)ことを示している。  
 急性経皮毒性 : 繰り返し皮膚に接触すると刺激性を及ぼす恐れがある。  
 皮膚刺激性 : 症状には、疼痛、掻痒、脱色、腫脹、および水疱形成が含まれることがある。  
 皮膚感作 : 皮膚への接触がアレルギー性皮膚反応を引き起こすとは考えられていない。  
 急性経皮毒性 : 本物質は経皮毒性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。  
 皮膚刺激性 : 本物質は皮膚刺激性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。  
 皮膚感作 : 情報は、類似物質または類似製品構成物物のデータ評価に基づいている。  
 皮膚感作 : 本物質は皮膚感作性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。  
 飲み込み : 情報は、類似物質または類似製品構成物物のデータ評価に基づいている。  
 急性経口毒性 : 本物質は経口毒性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。  
 吸入 : 情報は、類似物質または類似製品構成物物のデータ評価に基づいている。  
 吸入 : 吸入した場合有害であるとは考えられていない。  
 石油を基本とする鉱油を含有している。鉱油ミストの推奨される曝露限界値を超える空気中の鉱油ミストの持続的または反復した吸入により、呼吸器の刺激やその他の肺障害がおこる恐れがある。  
 呼吸器の刺激症状には咳と呼吸困難が含まれる。  
 硫化水素は強い腐卵臭がする。しかし、高濃度で持続的に曝露されると硫化水素はヒトの臭覚を麻痺させる。腐卵臭がなくなったからと言って、必ずしも硫化水素への曝露が終わったということではない。低濃度でも硫化水素は眼、鼻、喉に刺激性がある。中程度の濃度では、頭痛、めまい、吐き気、嘔吐のほか咳や呼吸困難を引き起こす。さらに高濃度では、ショック、痙攣、昏睡、死亡を引き起こす。高度の曝露では、通常では症状は直ちに現れる。  
 米国国立労働安全衛生研究所(NIOSH)は、硫化水素ガスの空気中の濃度 100ppm以上を即時生命危険濃度(IDLH)としている。  
 急性吸入毒性 : 本物質は吸入毒性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。

	情報は、類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。
急性毒性予測	: 未決定
遅延性またはその他の健康障害作用	
生殖毒性	: 本物質は生殖毒性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は、類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。
発がん性	: 本物質は発がん性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は、類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。
生殖細胞変異原性	: 本物質は変異原性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は、類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 本物質は特定標的臓器毒性物質(単回ばく露)とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は、類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 本物質は特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は、類似物質または類似製品構成物質のデータ評価に基づいている。
誤えん有害性	: 本物質は誤えん有害性とは考えられない。
その他の毒性情報	: 本製品は、高度な溶剤抽出、水素化分解、または水素添加処理など多くの工程を経て精製された石油基油を含有している。OSHA危険性周知基準(29 CFR1910.1200)では、油の発がん性の警告は必要とされていない。これらの油は米国国家毒性評価計画(NTP)年報にリストされたことはなく、国際がん研究機関(IARC)でもヒトに対して発がん性がある(第1群)、おそらくヒトに対して恐らく発がん性がある(第2A群)、ヒトに対して発がん性があるかもしれない(第2B群)に分類されていない。これらの油は、米国産業衛生市門家会議(ACGIH)によって明白なヒト発がん物質(A1)、ヒト発がん物質の疑い(A2)、動物に対する完全な発がん物勅でヒトでの発がん性は不明(A3)とは分類されていない。
成分(粘度調整剤)	
眼刺激性	: 本物質は眼刺激性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
急性経皮毒性	: 本物質は経皮毒性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
皮膚刺激性	: 本物質は皮膚刺激性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
皮膚感作	: 本物質は皮膚感作性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
急性経口毒性	: 本物質は経口毒性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
急性吸入毒性	: 本物質は吸入毒性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
急性毒性予測	: 未決定
生殖毒性	: 本物質は生殖毒性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
発がん性	: 本物質は発がん性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
生殖細胞変異原性	: 本物質は変異原性物質とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 本物質は特定標的臓器毒性物質(単回ばく露)とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 本物質は特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)とは考えられない。本製品の試験は行われていない。情報は類似した物質又は製品成分のデータに対する評価に基づいている。
誤えん有害性	: 本物質は誤えん有害性とは考えられない。
その他の毒性情報	: 本製品は、高度な溶剤抽出、水素化分解、または水素添加処理など多くの工程を経て精製された石油基油を含有している。OSHA危険性周知基準(29 CFR1910.1200)では、油の発がん性の警告は必要とされていない。これらの油は米国国家毒性評価計画(NTP)年報にリストされたことはなく、国際がん研究機関(IARC)でもヒトに対して発がん性がある(第1群)、おそらくヒトに対して恐らく発がん性がある(第2A群)、ヒトに対して発がん性があるかもしれない(第2B群)に分類されていない。これらの油は、米国産業衛生市門家会議(ACGIH)によって明白なヒト発がん物質(A1)、ヒト発がん物質の疑い動物に対する完全な発がん物勅でヒトでの発がん性は不明(A3)とは分類されていない。
成分(ポリアルファーオレフィン)	
急性毒性(経口)	: ラットLD50 2000mg/kg以上、毒性は極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく。
急性毒性(経皮)	: ラットLD50 2001mg/kg以上、毒性は極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく。
急性毒性(吸入)	: LC50 >5000mg/m3 毒性は極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく。
吸入炎症	: 常温/通常扱う温度では、極めて毒性は低い。類似構造物質の試験データに基づく。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	: 常温/通常扱う温度では、刺激性は極めて低い。類似構造物質の試験データに基づく。
眼に対する重篤な損傷性 /刺激性	: 眼に短時間軽度な不快感を及ぼす恐れがある。類似構造物質の試験データに基づく。
感作性	: 試験用動物または人間に感作性はない。
慢性毒性、長期毒性	: 同一または類似の物質による実験室での研究によれば、通常の使用条件下では、健康への重大な影響は引き起こさないと予測される。
生殖細胞変異原性	: 情報は得られていない。
発がん性	: OSHA/NTP/IARCに記載されていない。
生殖毒性	: 情報は得られていない。
催奇毒性	: 情報は得られていない。

成分 (脂肪酸エステル)	
急性毒性 (経口)	: ラット LD50 20.5 mL/kg ラット LD50 3,300 mg/kg
急性毒性 (経皮)	: ウサギ LD50 >2,000mg/kg ウサギ LD50 >6,400mg/kg 以上、EU-RAR NO.37 (2003)
<以下、成分に含まれるビスフェノールA (製品中の含有量: <0.02%) の情報>	
皮膚腐食性/皮膚刺激性	: ウサギの皮膚刺激性試験結果(4時間塗布、OECD TG 404)では皮膚刺激性は認められなかった。(DFGOT suppl (2011), EU-RAR (2010))
眼に対する重篤な損傷性 / 刺激性	: ウサギの眼刺激性試験結果(OECD TG 405)では角膜、虹彩への影響が適用後28日まで持続して観察された(DFGOT suppl (2011), EU-RAR (2010))。また、ウサギで軽度から中等度の刺激性も報告されていることから(DFGOT vol.13 (1999))、眼刺激性があると判断された。
呼吸器感受性	: データ不足 (分類できない)
皮膚感受性	: モルモットのマキシマイゼーション法では陰性(DFGOT vol.13 (1999))、マウスを用いた皮膚感受性試験(LLNA法変形)では30%溶液の誘発で陰性であった(DFGOT suppl (2011), EU-RAR (2010))。また、ウサギで軽度から中等度の刺激性も報告されていることから(DFGOT vol.13 (1999))。一方、人では、本物質の他、エポキシ化合物等を取り扱った皮膚炎発症作業者を対象としたパッチテストでは、本物質に陽性反応を示す例が認められている(EU-RAR (2010))が、本物質の製造工場従事者を対象とした疫学調査では、100~150例の全ての従事者で皮膚感受性は陰性であったとする報告もある(EU-RAR (2010), DFGOT vol.13 (1999))。本物質は感受性物質として、Frosch接触アレルギーリスト(Frosch et al. Contact Dermatitis 5th Ed. (2011))に記載されている。以上、多くの動物試験や人の疫学調査で陰性との報告もあるものの、明確な証拠が不十分であることから、区分1とした。本物質は、EU CLP分類において、「Skin sence.1 H317」に分類されている(ECHA C&L Inventory (Access on December 2015))。
生殖細胞変異原性	: vivoにおいて意味のある変異原性を示さない。
発がん性	: 情報不足 (分類できない)
生殖毒性	: 実験動物で生殖毒性を示す証拠が十分にあり、マウス連続交配試験では親動物に一般毒性影響がない用量で生殖能低下がみられている。(区分1B) なお、EUは本物質の生殖毒性をRept. 1Bに分類している。(ECHA C&L Inventory (Access on December 2015))。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: ヒトについての情報はない。実験動物ではラットを用いた単回吸入暴露試験で、口腔上皮組織の軽微な延焼と鼻腔から口腔にかけての粘膜の軽微な潰瘍形成が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記載がある(EU-RAR (2010))。また、ラットの単回経口投与試験で2,000mg/kgの用量で傾眠と衰弱が認められたが死亡例はなかったとの記載がある(EU-RAR (2010))。さらにラット、マウス、ウサギへの単回経口投与で、興奮とそれに続いて緊張減退、痙攣、運動失調、下痢そして尿量の増加が認められたとの報告がある(NITE 初期リスク評価書(2005)、DFGOT vol.13 (1999))。以上より区分(呼吸器)、区分3(麻酔作用)とした。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: ヒトについての情報はない。ラットを用いた強制経口投与による28~32日間反復投与毒性試験において、区分2さうとうの200mg/kg/day(28日間投与、90日間換算: 62mg/kg/day)で消化管への影響(結腸粘膜の過形成、十二指腸及び空腸の中心乳び腔拡張)の報告がある(NITE 初期リスク評価書(2005))。また、ラットを用いた吸入毒性試験において、区分2相当の0mg/m <sup>3</sup> (6時間/日、65日間暴露: ガイダンス値換算; 0.036mg/L)で呼吸器への影響(鼻腔、呼吸粘膜の炎症、扁平上皮過形成)の報告がある(NITE 初期リスク評価書(2005)、DFGOT suppl (2011), EU-RAR (2010))。以上より区分2(消化器、呼吸器)とした。
誤えん有害性	: データ不足 (分類できない)
成分 (有機モリブデン化合物)	
急性毒性	: 利用可能な情報はない。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	: 皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性	: P. I. I=2.8 中程度の刺激性あり
刺激性	: 利用可能な情報はない。
呼吸器感受性	: 利用可能な情報はない。
皮膚感受性	: 利用可能な情報はない。
生殖細胞変異原性	: Ames試験 : 陰性 染色体異常試験 陰性
発がん性	: 鉱油/ACGIH: A4 - Not Classifiable as a Huma A4 - Not Classifiable as a Huma IARC: Group 3
生殖毒性	: 利用可能な情報はない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 利用可能な情報はない。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 利用可能な情報はない。
誤えん有害性	: 利用可能な情報はない。
成分 (流動点降下剤)	
急性毒性 (経口)	: ラット LD50 5000mg/kg以上 関連物質/類似物質
急性毒性 (経皮)	: ウサギ LD50 5000mg/kg以上 関連物質/類似物質
急性毒性 (吸入)	: テスト環境: 粉じん/ミスト 高粘度の為、ミストになり難い。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	: 皮膚との接触が長く頻繁にあると、刺激が除けないことがある。 皮膚脱脂作用がある。
眼に対する重篤な損傷性	: 眼刺激を引き起こす恐れがある。

/刺激性	関連物質/類似物質
呼吸器感作性/皮膚感作性	: データなし。
生殖細胞変異原性	: データなし。
発がん性	: データなし。
生殖毒性	: データなし。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: データなし。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: データなし。
誤えん有害性	: 高粘度の為、吸引性呼吸器有害性を示さない。

## 12. 環境影響情報

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

### 製品

混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。

生態毒性	: 分類できない。
残留性・分解性	: 分類できない。
生体蓄積性	: 分類できない。
土壤中の移動性	: 分類できない。
オゾン層への有害性	: 分類できない。
その他の情報	: 分類できない。

### 成分 (石油系炭化水素)

#### 生態毒性

##### 急性毒性

: 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。  
魚類 (ファットヘッドミノー 96時間) LL50 100mg/L以上  
甲殻類 (オオミジンコ 48時間) EL50/NOEL 10,000mg/L以上  
藻類 (セレナストルム) NOEL 100mg/L以上  
難水溶性のため上記試験においては調整されたWAF (水適応性画分) を試料として使用している。  
上記試験結果から水生環境急性有害性なしと判断する。

##### 慢性毒性

: 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。  
魚類 (ファットヘッドミノー 14日間) NOEL 100mg/L以上  
甲殻類 (オオミジンコ 21日間) NOEL 10mg/L以上  
微生物の発光試験 (4日間) による発光の抑制は確認されなかった。  
難水溶性のため、上記試験においては調整されたWAF (水適応性画分) を試料として使用している。  
(水適応性画分) を試料として使用している。  
上記試験結果から水生環境慢性有害性なしと判断する。

#### 残留性・分解性

: 生分解試験結果は31% (28日間) であることから、本質的生分解性を有するが、易生分解性ではないと判断する。

#### 生体蓄積性

: 有用な情報なし。

#### 土壤中の移動性

: 類似基油のlog KOCは3以上と推測され、地表で漏出した油は土壤に吸着されることにより地下水へ流出することは考えにくい。

#### オゾン層への有害性

: 有用な情報なし。

#### 他の有害影響

: 微生物の発光試験 (4日間) による発光の抑制は確認されなかった。

### 成分 (潤滑油添加剤)

#### 生態毒性

: 本品は水生生物に有害であり水生環境に長期的影響を及ぼすことがあると考えられている。  
製品自体は試験されていない。この記述は個々の成分の特性から導き出されている。  
この物質は海洋生物に対して高毒性の分岐アルキルフェノール不純物を含有する成分の一つ若しくは複数含有している。しかし、この不純物を含む成分を検査した結果、海洋生物に無毒であることが示された。従って、本製品の海洋毒性の分類にアルキルフェノール不純物に関するデータを用いるべきではない。

#### 土壤中の移動性

: 利用可能なデータなし。

#### 残留性・分解性

: 本物質は、容易に微生物によって分解されるとは考えられていない。  
本物質の生分解性は、構成成分または類似物質のデータ評価に基づいている。  
製品自体は試験されていない。この記述は個々の成分の特性から導き出されている。

#### 生体蓄積の可能性

: 生物濃縮因子: 利用可能なデータなし。  
オクタノール/水 分配係数: 利用可能なデータなし

#### オゾン層への有害性

: 利用可能なデータなし。

### 成分 (粘度調整剤)

#### 生態毒性

: 本物質は、水生生物に有害性はないと考えられている。  
製品自体は試験されていない。この記述は個々の成分の特性から導き出されている。

#### 土壤中の移動性

: 利用可能なデータなし。

#### 残留性・分解性

: 本物質は、容易に微生物によって分解されるとは考えられていない。  
製品自体は試験されていない。この記述は個々の成分の特性から導き出されている。

#### 生体蓄積の可能性

: 生物濃縮因子: 利用可能なデータなし。  
n-オクタノール/水分配係数(対数値): 利用可能なデータなし

#### オゾン層への有害性

: 利用可能なデータなし。

### 成分 (ポリアルファーオレフィン)

#### 生態毒性

: 水生生物に有害であるとは予測されない。

#### 生体蓄積性

: 本質的には生分解性と予測される。

#### 土壤中の移動性

: 情報は得られていない。

#### その他の情報

: 重大な影響や毒性は報告されていない。

## 成分 (脂肪酸エステル)

<以下、成分に含まれるビスフェノールA (製品中の含有量：<0.02%) の情報>

甲殻類(ミット・シュリブ)	: 96時間/LC50 1100 $\mu$ g/L (環境省リスク評価第三巻、2004)
微生物分解性	: 初濃度 8.4ppm 分解率 7日後 100%
生体蓄積性	: データなし (分類できない)
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

## 成分 (有機モリブデン化合物)

生態毒性	: 利用可能な情報はない。
残留性・分解性	: 利用可能な情報はない。
生体蓄積性	: 利用可能な情報はない。
土壤中の移動性	: 利用可能な情報はない。
オゾン層への有害性	: 利用可能な情報はない。
他の有害影響	: 利用可能な情報はない。

## 成分 (流動点降下剤)

生態毒性	
魚毒性	: LC50 > 1000 mg/l 関連物質/類似物質
甲殻類	: EC50 ミジンコ類 > 1000 mg/l 関連物質/類似物質
追加情報	: 下水、土壤、水系に流入させないこと。
残留性・分解性	: データなし。
生体蓄積性	: データなし。
土壤中の移動性	: データなし。

**13. 廃棄上の注意**

残油廃棄物	1 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。 2 投棄禁止。 3 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

**14. 輸送上の注意**

国際規制	
国連分類	: 国連の分類基準に該当しない。
国内規制	
下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規則に従った容器、積載方法により輸送する。	
陸上輸送	
消 防 法	: 危険物 第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)
容 器	: 危険物の規制に関する規則別表第3の2に定めた適合品を使用する。 (注) 容器は、危険物の規則に関する技術上の基準の細目を定める告示第68条の5に定める容器試験基準に適合していることを確認すること。
容器表示	: 一 危険物の品名 第4石油類 危険等級Ⅲ 潤滑油 二 数量 三 火気厳禁 表示対象物 (労働安全衛生法)
海上輸送	
船舶安全法	: 非危険物 (個別運送及びバラ積み運送に於いて)
航空輸送	
航空法	: 非危険物
輸送の特定の安全対策及び条件	: 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。

**15. 適用法令**

国内法規と規則	
消防法	: 危険物 第4類 引火性液体 第4石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)
労働安全衛生法	: 名称を表示すべき危険物及び有害物 鋇油 名称を通知すべき危険物及び有害物 鋇油 モリブデン及びその化合物
化管法 (PRTR法)	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
水質汚濁防止法	: 油分排出規制
下水道法	: 鋇油類排出規制
海洋汚染防止法	: 油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 産業廃棄物規制

**16. その他の情報**

(引用文献)

化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂10版（2023年）  
GHSに基づく化学品の分類方法（JIS Z 7252-2019）  
GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル，作業場内の表示及び安全データシート  
（JIS Z 7253-2019）  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS関連情報  
安全衛生情報センター「GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報」  
2021 許容濃度の勧告（日本産業衛生学会）  
その他文献調査によって得られた情報

---

安全データシートは、提供した製品の安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものです。取扱者はこれを参考とし、自らの責任において個々の取り扱いの実態に合わせた処置を講ずることが必要であり、これを理解した上で活用してください。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。